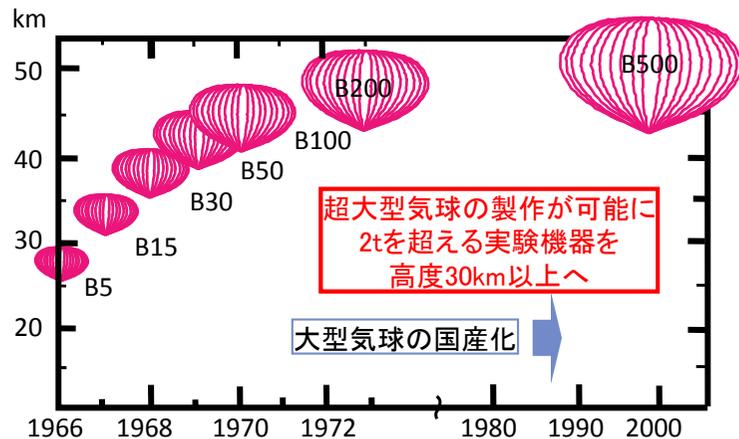


次世代気球の開発 ~より重いものをより高く、長時間

- 衛星観測を先導する科学成果を目指す高感度・高精度観測により宇宙を知り、またリモートセンシングと相補的なその場観測により地球を知る

より重いものを

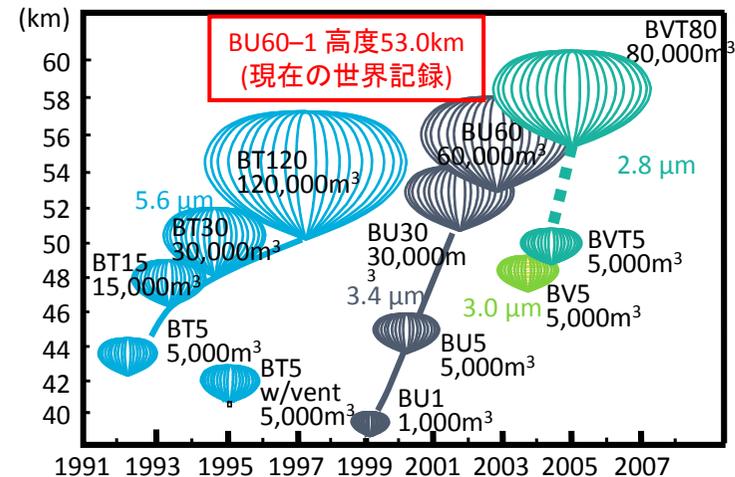
大型気球の開発・国産化



より高く

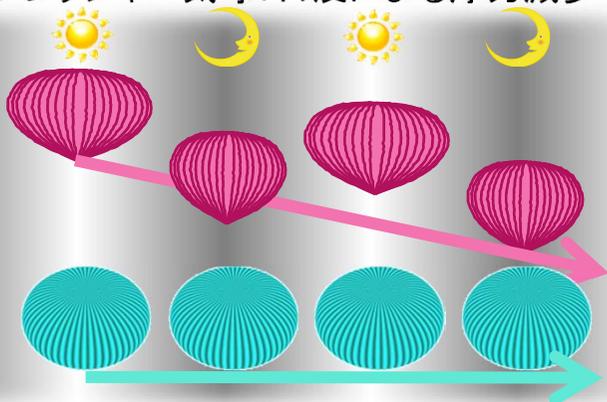
超薄膜高高度気球

中間圏その場観測を実現
軽量な大気観測機器を中間圏に



長時間

ゼロプレッシャー気球: 日没による浮力減少



南極周回



PPB#7 2004

スーパープレッシャー気球



カボチャ型/俵型



小型飛翔体の将来

- 小型飛翔体の存在意義
 - 機動性、柔軟性を活かした最先端科学観測や工学実証実験
(知見の拡大、頂点の引き上げ)
 - 飛翔体による研究の入口として周辺分野の取込みや若手育成
(分野の拡大、底辺の拡充)
 - 次世代飛翔システム開発による新しい宇宙実験機会の創出
(機会の拡大、多様性の確保)
- 宇宙科学・宇宙利用の高度化に伴う小型飛翔体需要の増加
 - 高度技術を人工衛星などに搭載する前の実証試験の必要性
 - まず低コストで機動力のある小型飛翔体で足元を固める
 - 多額のコストを必要とする大型宇宙計画の増加による飛翔機会の減少
 - 最先端の宇宙科学・宇宙利用を創意工夫で小型飛翔体実験で実現
 - プロジェクトの大型化による人材育成機会の減少
 - 短期間で全体を見渡せる規模のプロジェクトを利用した
将来の宇宙科学・宇宙開発を担う人材(若手職員、大学院生)育成

